

本興寺だより

令和四年
九月
第三七号

「八百の眼の功德・千二百の耳の功德・八百の鼻の功德・千二百の舌の功德・八百の身の功德・千二百の意の功德を得べし。この功德を以て六根を莊嚴して皆清浄ならしめん」

（法華經 法師功德品第十九）

猛暑も何時しか去り、朝夕に涼しさが感じられます。九月十日は中秋の名月です。旧暦では七・八・九月を秋として、その真ん中の八月十五日を「中秋」と呼び、その晩に上がる月が「中秋の月」と呼ばれています。

月見団子供え、秋の七草を飾って、神秘的な月に祈り、秋の収穫を祝ったものです。

大自然の風景の中には、天体の運行から、四季の変化、草木、生物の消滅に至るまで、全て調和が保たれ、生きる指針が示されていると云われます。

生命の実相も人の生き方も、他人と、また自然の万象と調和した時初めて輝くのです。

調和した生き方をするとは、皆共に助け合って生きていることに感謝を忘れず、自分を可愛さのあまり突出させないことだと云われます。何事も自己中心になり過ぎるとかえって苦悩がふくらむのです。

何時でも、何事にも今を生きている自分に感謝し、周囲の人々にも感謝と尊崇の心を忘れない時が、自らが最も力が発揮できるのだということです。



心が満たされており、如何に周囲の人に喜んでもらえるか、良きものを分かち合おうという気持ちを何時も持ち続けたからこそ大成功を収めたのです。人はどんな時でもこの気持ちで生きる事が大切なのです。

花瓶の一凜の花にも小さな秋を感じ、心が和むゆとりと感性を持つことが大事なのです。

神仏の意思、天の意思は人々が生命のあるもの全体を思いやり、寄り添う生き方をする時に功德と生きる智慧が授かるのだと云われます。

過ぎ去った人生を振り返れば、誰でも起伏の多い生涯を送っています。最初から波乱万丈の人生を求める人はいません。予期しなかったことに沢山出くわし、むしろ思い通りの人生を歩むことが出来たと感じら

れる人は少ないのではないのでしょうか。想定外のこと押しつぶされそうになり、挫折を味わうこともしばしばです。

「それが人生」と客観的に言えるのは他人のこと。自分のこととなると話は別なのです。願望と違う現実を素直に受け入れ難い自分の心が何処かにあります。その心が何時までも苦しみや悩みを引きずると云われます。自分の心に蓋をして閉じこもれば己の命が死んでしまいます。

長い竹には節がたくさんあります。人生の大きな出来事は（竹の）節（目）でもあります。辛い時、心を切り替えて上を目指す時、節から必ず新しい枝葉が出て広がるように、運勢を好転できるということです。

誰でも幸せな人生を送りたいと願っています。ではその幸せとは何か？人は自分の願いが叶うこと、経済的に満たされること、人間関係が良好なこと、そして健康であること等と考えます。そのどれが欠けても、そこに目が行き、不満や心配で悩みます。どの項目も自分の基準を満たしていないと幸せと感じず感謝の念もわかないのです。

草木のように種や球根から新芽が出て茎や葉が伸び成長して綺麗な花を咲かせるように、幸せとは小さな幸せを感じる心を育てることが大きな幸せをつかめるのだと仏様は云われます。

本当の幸せは宝くじの当選のように、急に舞い降りてこないのです。もしそういう幸せを得ても長続きしないのです。壊れない幸せを得る芽は心の中で発芽さ

「タマゴボーロ」で有名な竹田製菓を創業し、日本の個人投資家で、百三十社以上の大株主で大富豪であった竹田和平さん（名古屋出身・平成二十八年死去）は、生前親しい友人に、

「タンポポのように背の低い花は上を向いて咲いてくれるがね。人間と背丈が同じひまわりはこつちを向いて咲いてくれるがね。高いところに咲いとる桜は下を向いて咲いてくれるがね。花はいつも人間に向かつて咲いとるでよ。これ以上の有り難うは他にあるかなあ。天は自分を愛してくれている。まずはこれに気付くことだよね。」と言って笑ったそうです。

世育てなのです。

仏様は法華經の教えを保ち、六根（眼・耳・鼻・舌・身・意）を清浄にすれば大いなる次の功德が授かるのだと説かれています。

功德とは、現世・来世に幸せをもたらす善い行いであり神仏のご利益です。

- ① 眼の清浄とは、先入観を持たず、善悪や美醜をはっきり見分ける力。
- ② 耳の清浄とは、あらゆるものの声を冷静に聞き、喜怒哀楽を共感できる心
- ③ 鼻の清浄とは、良いものと悪いものを嗅ぎ分けられる力。



- ④ 舌の清浄とは、美しく味わえる力。言葉で人の心を善き方に動かせる力。
- ⑤ 身の清浄とは、助け合い、奉仕すること。に生きがいを感じられる清らかな身体。
- ⑥ 意の清浄とは、感謝の心、慈悲の心、やさしさで厳しさを具えた心。です。

神道の大祓いの祝詞にも、この六根清浄を清くする言葉が述べられています。

生き方を絶えず振り返り、六根を清めていく中で、人それぞれに見合う幸せの芽が大きく必ず開いてくるのだと云われています。

お彼岸の月です。六根が清浄になれば、神仏への感応の心が深まり、また先祖の御霊と共に生きていることが肌で感じられるのだと説かれています。合掌